



やっと桜の季節になりました。2018年に、新しく著作権法が一部改正になり、1月には施行令も出されて、いよいよ今までのように許諾事務手続きをしないで拡大図書を作れるようになりました。又今年度から障がい等により教科書を使用して学習することが困難な児童生徒の学習上の支援のため、必要に応じて「デジタル教科書を」通常の紙の教科書に代えて使用することができるようになりました。様々な変化が訪れています。世話人会はできるだけ、多くの情報を皆様にお伝えするよう心がけています。



障害のある児童生徒の教科書に関する講習会

2018.12.25

柏市拡大写本サークル 傍島 純子

少し前のお話になりますが、ゼロックス（株）主催の講習会が 文部科学省旧庁舎 6階第二講堂で開催されました。内容の一部をご紹介します。対象は

- ①教科用特定図書等を製作するボランティア団体等
- ② 都道府県・市町村教育委員会の教科用特定図書等担当者等、特別支援教育担当者等
- ③ 学校の教員等
- ④ 保護者

ということで、会場が変更になるほど多人数参加の会となりました。

1. 展示

講習会開始に先立ち、会場にはボランティア作製の拡大教科書、各種音声教材等や教科書発行者が発行している標準拡大教科書が展示され、拡大教科書のコーナーにも教育委員会など学校関係の方が来られ、多数のボランティア作製の教科書を見てもらいました。中にはボランティア作製の拡大教科書を知らなかったという先生もあり、担当者は懸命にその特徴や事務手続きについて説明しました。

Q. ボランティア作製の拡大教科書はどこかで見ることはできますか

神奈川県では利用者さんに呼びかけて、使い終わった拡大教科書を集めて教育委員会に送り、教育委員会が必要とする市町村に見本として送ってくれているそうです。この取り組みを他の県でも試してみてもいいですね。

Q 分冊が多くて、教える先生も苦労しています。

柏では、新年度に教科書を発送するときに、全分冊の単元や章と分冊の番号を入れた目次を先生と保護者に同送します。先生は拡大教科書をお持ちでないの、この目次を見て生徒さんにどの分冊を持ってくるか指示できます。これもできれば試みてください。

2. 教科用特定図書とデジタル教科書について 文部科学省初等中等教育局 教科書課

- ・教科書デジタルデータを活用した拡大教科書、音声教材等普及促進プロジェクトについて
- ・音声教材について
- ・発達障害のある児童生徒の学習上の困難さについて
(一言で発達障害と言ってもいろいろな見え方や困難があることを知りました)
- ・デジタル教科書のイメージ

わたしたちが日頃使っているデジタルデータとデジタル教科書は紙の教科書と同一の学習内容を電磁的に記録したもの。デジタル機能の活用による教育活動のいっそうの充実として、拡大縮小、ハイライト、共有、反転、リフロー、音声読み上げ、総ルビ、検索、保存等が利用可能になっている。

3. 教科書デジタルデータの取り扱い方法について データ管理機関運営事業者 富士ゼロックス(株)

4. 拡大教科書、音声教材等、各種教科書の説明

- ・ Access Reading 東京大学先端科学技術研究センター
PC やタブレット端末によって音声読み上げをすることができる教科書の電子データ
- ・ マルチメディアデージー教科書 (公) 日本障害者リハビリテーション協会
小中学校の発達障害など読みの困難がある児童生徒にデージー教科書の製作・提供を行っている、
- ・ BEAM NPO 法人エッジ
「文字の読み」にかかる負担をなくし、直接内容理解に繋がることがねらい。もちろん、文字を見ながら聞くこともでき、文字の読みの支援にもつながる。
- ・ 音声付教科書 NPO 法人テストと学習環境のユニバーサルデザイン研究機構/茨城大学
ペンタッチすると読める音声付き教科書
- ・ プライベート拡大教科書
- ・ PDF 版拡大教科書 (UD ブラウザ) 慶応義塾大学

わたしたちのプライベートサービスの拡大以外は全て最先端の IT 技術を使って開発されたもので、ただただ感嘆あるのみでした。アナログの紙の拡大教科書は重い、持ち運びが大変、分冊が多いなどと不便な点も多いのですが目に優しいということで、需要のある限り作り続けていこうと思いを新たにしました。

5. [番外編プログラム] これからの拡大教科書作製ボランティアの活動に期待されること

慶応義塾大学教授 中野 泰志 先生

教科書のデジタル化が進むなか、拡大教科書作製ボランティアに改めて期待される役割や活動領域は必ず存在し、拡大教科書はまだその役割があるとの中野先生のご意見とボランティア側からデジタル教科書についての質問がなされ、今後の方向を探る提案もされました。

「中学、高校の教科書を拡大する際、今まで通り全てを拡大するのではなく、利用者が拡大して欲しいところと単なる拡大コピーで良いところを区別して、より使いやすい教科書を作ることも考えていいのではないか。」

総合学習「情報保障とボランティア」の講演 2/8

世話人 佐藤 邦隆

筑波大学附属特別視覚特別支援学校高等部 2 年生を対象に 2 月 8 日に「総合学習」の時間で講演をし

ましたので報告をします。毎年定例として実施され今年で4年目となります。生徒は17名で、点字使用生徒が半数弱、残り半数強が弱視生徒という構成でした。「総合学習」は2時間で構成されていて、点訳と拡大教材製作の両方のボランティアがそれぞれ1時間ずつの持ち時間で話しました。講演のテーマは「情報保障とボランティア」で、生徒が社会に巣立つに当たり、弱視の生徒が点訳の話を通じて全盲の生徒が拡大教材製作の話を知り、同じ視覚障害者として、それぞれの情報保障に携わっている両方のボランティアのことを知って共有することは大切であるという趣旨です。

私からは、そもそも拡大写本とは何か、どのように製作しているか、全国拡大協はどういうところか、依頼するにはどうしたらいいのか、など基礎的で全般的なお話をしました。拡大ボランティアの特徴は「一人ひとりの見え方に応じた教材にすること」であることを強調しました。生徒の皆さん非常に熱心に聴いてくれて、それぞれが視覚障害を持ちながらも自分にあった方法でメモを熱心に取っていました。後日、17名の生徒全員から感想文が届きましたが、その充実した内容に感動を覚えました。要約をご紹介します。

☆私は今まで、「楽ではないが文字が読めるから普通のままでいいや」と思ってきたことが何回もあります。しかし、一定の速度で楽に間違いを少なく読めることが大切だと聞いて「なるほど!」と思いました。私は今まで楽だとは思ってこなかったもので、そういう時には拡大写本を使うことにより快適に読むことができ、勉強が捗るかもしれないと思いました。

☆拡大図書や点訳図書、またこれらを制作するボランティアの発展のために、読みやすいレイアウトを伝えたり積極的に読みたい本をリクエストしたりするなどして、自分たちに出来ることをやっていきたいと思いました。

☆私は普段、拡大の教科書を使っていたが、レイアウトが整っていたボランティアの方の作ってくださった教科書が読みやすいと感じた事があった。また、パソコンなどを利用した新たなシステムの導入については、デメリットもあると感じた部分もあり、難しいこともあると思うので、当事者である視覚障害者の意見も取り入れて欲しい。

☆私は読書が大好きで、盲学校に入ってから、拡大写本にお世話になっていました。拡大写本はかなり読みやすく、通常のをルーペで読むよりも、早く楽に読むことができました。

☆佐藤さんが、「視覚障害者に対して、私たちは当然のこととして支援する。」とおっしゃっていたのを聞いて、私は感謝の気持ちでいっぱいになりました。私は、助けが必要だと感じるとき、「助けを求めたら迷惑をかけてしまう。」と助けを求めることをためらうことが多いです。しかし、自分から、必要な支援を求め、助けてもらい、それに感謝することが大切だということを初めて本当の意味で実感しました。

☆デジタル教科書のように画面上で必要な情報を読むことができることが一般的になりつつあり、それに呼応して著作権法も改訂されるなど最上の教育を受けられる環境が出来上がりつつあるということが分かり、障害を持たない人にも理解してもらえる世の中に近づいていると感じて嬉しく思いました。そう感じるとより一層、お話の中で問題だと提起されていた支援を必要とする生徒とボランティアの方々がつながることができないということがより一層もどかしく、もっと簡単に情報を手に入れられる環境を作ることが重要だと思いました。



「iPad を活用した PDF 版拡大教科書(教科書)活用実践報告会」 に参加して

拡大写本グループ赤いくつ 宮崎 希代子

2月2日(土)に、慶應義塾大学日吉キャンパスで行われた公開シンポジウムに行ってきました。特別支援教育においては、今年4月よりすべての教育過程でデジタル教科書が使用できるようになります。それに先駆けて、UDブラウザ開発の研究協力校として既にiPadを授業に取り入れている盲学校(8校)・支援学校(3校)の先生が、iPadを導入するにあたっての学校の取り組み・授業の様子・生徒の反応・今後の課題等について、発表されました。

iPadはお子さんに非常に好意的に受け入れられています。iPad一台に何冊もの教科書が入る可搬性の良さ、ページがすぐに開けるということは児童生徒がストレスを感じない点として多くの先生が話されていました。(ちょっと拡大教科書を作っている身には分が悪いところです。)ただ、iPadは目が疲れるからと紙の教科書を選ぶ生徒さんも若干ですがいました。

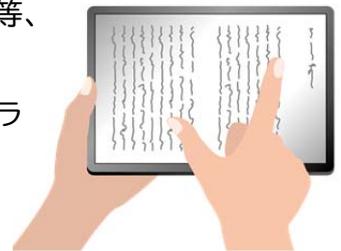
iPadをどれだけ活用できるかは学校ごとにいろいろ工夫されていて、職員間で研修をして、先生方もスキルアップをはかっているとのことでした。

一昔前は黒板に書いた板書も、PDFのファイルにして各生徒のiPadに送れば、生徒は自分の見えやすい大きさに拡大して見ることができます。美術の絵画鑑賞で拡大することにより油絵のタッチがわかり、体育のマット運動を動画撮影して体の動きをゆっくりチェックする等、様々な場面で活用されていると知りました。

UDブラウザも、従来のページ検索機能・リフロー拡大機能・書き込みやラインマーカー・白黒反転・読み上げ…等の機能に加え、去年は試験モード・夜間の利用や長時間の利用時にアラートを表示する機能も追加されました。

今後の課題としては、iPadをいかに活用するかは先生のスキルによるところが大きく、格差が生まれやすいこと、また、高価なものなので、費用負担はどうするのか…といった点が挙げられます。貸与のiPadを使用する場合、学校の外に持ち出しができない場合もあり、家庭学習に使えません。ある先生が「iPadほどたくさんの機能は要らないから、教科書用のタブレットを安く作ってくれないか」と発言されたとき、多くの先生が頷かれていました。

授業風景はずいぶん変わりました。でもまだまだ、拡大教科書を待っている生徒さんもいます。同行した会のメンバーと持ち寄った製作中の拡大教科書の分冊を交換し、次の定例会までに校正する約束をして帰路につきました。



「著作権法を学ぼう」研修会のお知らせ

既にメールで皆様にお知らせしましたが、文化庁著作権課のご協力をいただき、改正著作権法を勉強する研修会を開催することになりました。

日時：2019年4月24日(水) 13:30~15:30

場所：東京都障害者福祉会館 港区芝5丁目18番2号

講師：文化庁著作権課 著作権登録係長 壇上容子様

研修会内容

- ・著作権制度の基礎について
- ・著作権法 37 条の解釈・主旨の解説、新制度の手続き方法、改正前との違いなど
- ・質疑応答

まだ人数に余裕がありますので、お知り合いの拡大以外の音訳、点訳ボランティアの方もお誘いください。

現在のグループ数 45グループ

退会グループ

一般社団法人 東京女子大学同窓会 拡大写本 あじさい
ふきのとう文庫
拡大写本れんげの会

拡大 NOW

2019年度に行われる教科書出版社とのコラボは一般社団法人信州教育出版社に決まりました。理科 3,4,5,6 年生の 4 冊が共同製作されます。今後、具体的な打ち合わせをしながら進めて行きます。

編集後記 世話人のつぶやき

 31年度の教科書製作も3月末の発送に向けて最後の追い込みをされているところでしょうか。私たちのグループも、例会のない時に活動日を設けて頑張っています。

2020年には小学校の教科書が全面改定に、21年には中学校が。教科書のデジタル化が議題の研修会も多く開かれ、社会が大きく変化しています。今年度お約束した全国協議会の今後についてもしっかり考えて、結論を出さないといけませんね。

下丸子図書館拡大写本研究会 猪狩 美知子

 気がつけば、3月も終わってしまう。新年度の始まりは嬉しいやら、落ち着かないやら、少しばかり複雑ではあります。製作依頼のない、先が見えず、不安な1年を経験しました。うまくいかないからと足踏みせずに、気分一新のチャンスと捉えています。そう信じて、世話人会に顔を出しています。

豊島区立中央図書館ひかり文庫拡大写本グループ山本 裕美子